

「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携の可能性について

青少年健全育成領域 岡 佳 代

概 要

私は、これまで長年にわたって「放課後児童クラブ（学童保育）」の指導員として活動してきたが、退職後この講座を受講して様々なことを学ぶ中で、放課後の子供たちの居場所づくりが極めて大切であることに改めて気付かされた。また、授業の一環として「生涯教育実践研究交流会（福岡県立社会教育総合センターで開催）」等に参加し、全国各地の先進事例に触れる中で、徳島県内における放課後の子供たちが安全・安心に過ごすことのできる居場所づくりの今後の方向性を考えることとした。

「放課後子供教室」とは、小学校の余裕教室等を活用し、放課後に地域住民の参画を得て、子供たちと一緒に学習活動やスポーツ・文化活動等行う事業で、文部科学省がその支援・推進を図っている。また、「放課後児童クラブ」とは、共働き家庭等の10歳未満の小学生を対象に、放課後の適切な遊び場・生活の場を確保し、その健全な育成を図る事業（放課後児童健全育成事業）で、厚生労働省がその支援・推進を図っている。今日、少子高齢化が進む中、次代を担う全ての児童が放課後における多様な体験・活動等を行うようにするため、2014（平成26）年7月、文部科学省と厚生労働省が共同して「放課後子供総合プラン」を策定し、「放課後子供教室」と「放課後児童クラブ」の両事業の一体型の取組を含め、その計画的な整備の推進を図ることとなった。

これらの事業の全国を取組状況は、「放課後子ども教室」は2014（平成26）年12月現在11,991教室、「放課後児童クラブ」は同年5月現在22,084カ所（うち一体型は4,392カ所）で実施されている。徳島県内の実施状況は、「放課後子供教室」又は「放課後児童クラブ」のいずれかに取り組んでいるのは、2014（平成26）年6月現在、小学校168校中163校で実施率は87.6%となっている。しかし、「放課後子供教室」の実施校は43校と極めて少ない状況にある。

徳島市立新町小学校の現地調査や、私が働いていた助任学童保育クラブの活動状況を踏まえると、「放課後子供教室」と「放課後児童クラブ」は、その目的、役割、対象児童、実施方法、実施内容等が大きく異なることから、「一体型」の実施ではなく、両事業の「連携」が望ましいと考える。その際、無理なく継続的に事業を続けられるよう、地域の実情に応じた開催内容や開催回数なども工夫することや、地域住民や地域の機関・団体・施設等との連携も不可欠であろう。いずれにせよ、全ての子供たちに安全で豊かな放課後活動を保障するため、地域における子育てネットワークを拡げていくことが重要だと考える。